

はにんす

昭和51年（1976年）3月、伊良部島の民話調査で佐和田カニさんから話を聞く遠藤庄治。「アガリパトルマ若按司」を聞いているのだろうか？佐和田カニさんの話は、『いらぶの民話』（平成元年9月30日／伊良部町）などに掲載されている。

青山学院大学地域実習

コミュニケーション科学部三年生

七名が沖縄の伝承話を学ぶ

二〇二三年十月二十五日、二十九日、三〇日、七名の実習生（山口真也理事・沖国大教授現地指導者）を受け入れました。二十五日、当センターの活動内容や沖縄の民話の特徴などを大田副理事長が講話し、県立図書館主催「空飛ぶ図書館」（移動図書館・大宜味村）の「お話し会」で語る昔ばなしの再話と語りを指導。更に照屋副理事長が伝承玩具作りを指導しました。二十九日、「空飛ぶ図書館」の「お話し会」や「おもちゃ作り教室」は旧大宜味小学校跡を会場に行われ、学生たちは地域の子ども達とふれあいました。その後、学生たちは照屋寛信・比嘉久・松本安子・新城京美の案内で大宜味村の伝承地巡りを行いました。三〇日は名護博物館の見学と伝承玩具作りのワークショップ体験。昼食後、辺野古の普天間基地移設現場を見ながら、照屋副理事長から沖縄の基地問題を学びました。

【学生の感想（一部抜粋）】

* 田港では、松本安子さんの「テイサガ森」のお話しを聞き、冒頭の演出から話にすごく引き込まれていきました。民話を語る際にニガナを食べた歌姫が歌を歌うシーンで声をかすれさせていたり、悲しげな表情で震える手を伸ばしている様子が世界観とあっていたりと、物語に強く引き込まれました。

* 四日目（二十九日）の昼食で、民話にまつわるもの（ニガナの白和え）を実際に体験した時、昔の人たちもこれを食べ、今日と同じように「これはテイサガ姫の好物だ」と語っていたのかなあと感じました。その後、松本さんのお話しを聞いて、数百年前の人たちとシンクロしたようで、現地で体験しないと感じられない不思議な気分になりました。

* 沖縄で「人文（ジンブン）」は「知恵」のことを指すと教えていただきました。大田さんの実演を聞きながら、民話の語りがまさしく人文（ジンブン）だと感じました。何十年も聴き取り調査をし、デジタルアーカイブを作るまでの道のりは長かったと思いますが、デジタルアーカイブで伝承話が残っ

ていたとしても、伝える人がいなければやはり認知度は薄れてしまうのではないかとも思いました。デジタルで叶う部分もあれば叶わない部分もある、デジタルの時代だからこそ人文（ジンブン）を大切にすると、ということを考えながら、民話だけでなく、地域文化、伝統文化の継承についてこれからも学んでいきたいと思っています。



豊見城市の民話集づくりに協力

200話の梗概を作成・納品

昨年度に引き続き、豊見城市から委託を受けて、民話集づくりに協力しました。今年度は、昨年度に納品した豊見城市の民話650話の翻字資料の中から200話を選び梗概(あらすじ)を作成しました。

その中から、豊見城市にゆかりの深い話を紹介します。

瓦屋節由来

豊見城市字翁長

男性(M42生)

昔、支那で瓦のことを勉強して、沖縄で初めて屋根瓦をつくることに成功した人がいた。国王はその人と呼んで、「君は財産を貰うのと、国々をまわって、きれいな女を貰うのとどちらがいいか」と聞いた。その人はきれいな女を貰うことを選び、今の壺屋で瓦造りをしている仲間三人とあちこちの部落をまわって、きれいな女を捜した。

高安門中の本家(ムートウヤー)の屋敷の裏には、五月、六月のウマチー

の時に、保栄茂(びん)から来るヌルが通るための裏門があった。その裏門から、三人の瓦屋が入ってきて、髪を洗って乾かしていた女を、無理やり担いで連れて行った。高安門中の本家(ムートウヤー)には、棒術なども上手な偉い武士(武術に長けた者)の兄弟が二人いて「これは承知しない」といって追いかけた。女を担いだ三人は、「来るなら来てみ、私たちは国王の許しを得ている」といって、左御紋の国王の旗印を見せた。兄弟は「これでは追って行けない」と戻った。

それから壺屋はこの女の子孫が広がって繁盛した。今でも壺屋から正月には翁長の高安(タケーシ)門中本家に拝みに来る。

さらわれていった女が識名の馬場から翁長を見て詠んだ歌が、

瓦屋頂登て 真南向かて見れば

島影や見しが 里や見らぬ

という瓦屋節だ。

※高安門中の娘が裏門からさらわれていったため、今でも翁長・保栄茂の部落には、裏門をつくるのを嫌う風習が残っているという。

八重瀬町教育委員会

伝承話資料をデジタル化

伝承話資料センターが協力

八重瀬町教育委員会が八重瀬町に伝わる伝承話の資料整理を行い、継承することを目的とした事業を開始しました。

令和五年度、センターは八重瀬町教育委員会から委託を受け、600話のデジタル化を行いました。

その資料の中には、沖縄国際大学口承文芸研究会・沖縄民話の会が、昭和57年に調査した旧東風平町の資料があり、東風平当銘の金城友吉さん(明治43年生)や東風平小城の仲座カマドさん(40年生)など、明治生まれの話者が、しまくとうばで語っている昔ばなしや伝説が豊富に含まれていました。デジタル化作業を担当したのは、喜納弘子・島袋智子・村山友江の三名です。

旧東風平町は「鉄人譚」で知られる「京阿波根親方(チョーフグンウエーカタ)」の出生地で、旧東風平町ではその人を「カニカマドウー(鉄カマド)」と呼んでいます。

高校生・大学生、

沖縄の伝承話を学ぶ

2023年8月15日に首里高校生が「沖縄のシマクトウバを普及させるために民話の活用」について学ぶ。

2023年9月6日に早稲田大学日本語教育研究科修士課程の方が「沖縄の言語について聞かせて欲しい」と来訪。

2023年10月12日に立命館大学大学院人間科学研究科教授が「沖縄の民話を聞かせて欲しい」と来訪。

2023年11月15日に跡見学園女子大学生が「沖縄のしまくとうばで民話聞きたい」と来訪。

*琉球大学人文社会学部琉球アジア文化学科4年生が、「民話を語り継ぐこと・沖縄の民話文化を中心に」と題する卒論を提出。

*沖縄国際大学大学院地域文化研究科南島文化専攻の方(センター学生会員)が、修士論文「沖縄における蛇の文化―民話・伝承の世界を中心に―」を提出。

沖縄伝承話資料センター在庫書籍一覧

- 1 たまぐすくの民話
- 2 本部町の民話 上巻・昔話編
- 3 かつれんの民話 本島編
- 4 いしかわの民話 昔話編
- 5 むかしばなし(沖縄市教育委員会)
- 6 むかしばなしII(沖縄市：第27集)
- 7 むかしばなし動物昔話(沖縄市：第23集)
- 8 渡嘉敷村史資料編
- 9 大宜味のむかし話 編者：福地廣昭
- 10 おおぎみの昔話
- 11 宜野湾市史 第十章
- 12 読谷村 伊良皆の民話
- 13 読谷村 喜名の民話
- 14 読谷村 長浜の民話
- 15 読谷村 大木・牧原・長田の民話
- 16 読谷村 瀬名波の民話
- 17 読谷村 儀間の民話
- 18 読谷村 宇座の民話
- 19 読谷村 大湾・古堅の民話
- 20 読谷村 上地・親志・都屋の民話
- 21 久米島 仲里村史 仲里の民話
- 22 名護市 屋我地の民話
- 23 名護民話の会会報 じーる NO1
- 24 名護民話の会会報 じーる NO3
- 25 名護民話の会会報 じーる No4
- 26 那覇の民話資料(第1集 小禄地区)
- 27 具志川市史第三巻民話篇 抜刷
- 28 みやこのみんわー民話テレフォン第一集
- 29 みやこのみんわー民話テレフォン第二集
- 30 ゆがたい 宮古島の民話 第一集
- 31 ゆがたい 宮古島の民話 第三集
- 32 ゆがたい 宮古島の民話 第四集
- 33 沖縄民話の会会報セット (創刊号～14号)
- 34 子どものための民話集 第1集
- 35 小浜島の民話 (資料集)
- 36 日本民話の会 民話学校 in 沖縄
- 37 民話の手帖季刊第9号 (1982)
- 38 民話の手帖季刊第30号 (1986)
- 39 民話の手帖季刊第31号 (1987)
- 40 民話の手帖季刊第33号 (1987)

伝承話資料センターの 在庫書籍差し上げます！

センター会員に限りです。
お一人、各書籍一冊まで。

伝承話資料センターの資料整理に伴い、左記のセンター在庫書籍を会員みなさまに譲ります！欲しい本を選んで、センターにFAX及びメールでお申し込み下さい（※電話での申し込みは受け付けません）。

お一人、各書籍一冊までです。

左記の表の番号に丸印を付けて、必ず、本人の連絡先を記入して、センターにFAX及びメール下さい。

連絡先は下記の伝承話資料センターの連絡先をご覧下さい。
締め切りは、

5月17日(金)午後5時!

各書籍の在庫数には限りがあり、痛みの激しいものもありますので、ご了承下さい。先着順です。

申し込み受付後、受け渡し方法について相談の連絡を入れま
す。送料が必要な場合は、各自
でのご負担をお願いいたします。
総会時に受け渡しがお勧め！

今年度の総会は、
5月25日(土)14時
ぎのわんセミナーハウス

総会でお会いしまし
よう!!

■会費の納入よろしくお願ひします！

- ①ゆうちょ銀行 口座番号：01760-0-78884
 - ②沖縄銀行宜野湾支店 口座番号：1371606
- 口座名義は①②とも下記のとおり。

特定非営利活動法人沖縄伝承話資料センター

NPO 法人沖縄伝承話資料センター

〒901-2214 宜野湾市我如古2-4-15 301号

TEL/FAX 098-890-2455

E-mail : denshow1@at.au-hikari.ne.jp